

令和元年度 第3回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 令和2年2月21日（金） 午後2時から午後4時まで

場 所 職員会館 3階 会議室

出席者 委 員：齊藤委員、荒井委員、金澤委員、小林委員、杉山委員、角居委員

多田井委員、曲尾委員、村尾委員、山岸委員、若山委員

長野市：事務局（文化スポーツ振興部文化芸術課）倉島部長、内山課長

小林主幹、竹之内係長、山口主事

教育委員会事務局文化財課 小柳課長

《資料》

資料1 令和2年度 文化芸術振興事業予算（案）の概要

資料2 令和2年度 長野市子ども文化芸術賞受賞候補者選定資料 ※非公開資料

1 開会

2 会長挨拶

3 自己紹介

4 議事

(1) 令和2年度 文化芸術振興事業予算（案）の概要について

(事務局)

〈資料1について説明〉

(会長)

ただいまの説明について、ご質問、ご意見はありますか。

(A委員)

現代美術の作家は市内に大勢おられ、美術の潮流としては現代美術が中心になってきている。現在のところ、新たな芸術の姿を掘り起こしたり、助成を行うといった動きはあるのか。

(事務局)

新進作家の方に工房を見せていただき、市民の方に作家や作品のことを広く知っていただく「わが街ながののアート探訪」を行っている。また、作家が展示会を開催する際には、事業実施費用として芸術文化振興基金助成金を活用していただくことができる。市主催の作品展にも出品いただければと考えている。

(B委員)

祇園祭の屋台は市の誇る財産であるが、屋台は伝統芸能継承事業の補助対象に含まれているのか。また、訪日インバウンドが増えているということに関連し、大河ドラマが終わっ

てから松代の観光客が減っており回復していない。外国人観光客の受入整備はどのようになっているのか。

(事務局)

屋台に関する補助金は市観光振興課で担当しており、巡行に係る組立・解体・補修等の補助金を交付している。屋台巡行については、観光と連携を図りながら今後も市として支援を行っていく。

文化財関係については、今年度真田宝物館のホームページの多言語化をほぼ完成させている。また、文武学校ではQRコードによる多言語化説明の実現を図ろうとしているところである。真田宝物館では月80人から100人ほどのインバウンドがあり、展示物の英語紹介を整備している。

先日オーストラリアの旅行サイトが長野の取材を行った。興味は持ってもらえていると認識している。

(C委員)

ながの獅子舞フェスティバルは来年度で4回目ということで、新しい催しを通じて市街ににぎわいが作られていると感じている。市内の各集落でどれくらいの数がフェスティバルに参加しているのか。また、見て楽しむ事業と併行して、文化財として捉えた際の記録資料を保存し、後世に残していくことも必要ではないか。

(事務局)

市内の伝統芸能団体は、把握するだけでも約260団体が存在し、この中で獅子舞フェスティバルへの参加団体数は概ね80件である。なお、この数字には市外からの参加団体も含まれている。伝統芸能の保存・継承については、伝統芸能継承補助金によって修繕等に掛かる費用を補助している。

伝統芸能の継承が厳しい現状であるという声を市内団体からいただき、記録資料として残すアーカイブ事業を予算化しようと試みた時もあったが、方法の具体性や、アーカイブ資料を作成した後の活用が難しいため、現在は手法の研究を行っているところである。

(D委員)

松代文化ホールは令和元年度から文化芸術課所管ということだが、それまではどのようにしていたのか。

(事務局)

庶務課で所管しており、その時から指定管理を行っていた。

(D委員)

令和2年度から新たに指定管理者となるサンワックスとは、どのような会社なのか。

(事務局)

埼玉県熊谷市の企業であり、神奈川県等でホール管理を行っている。

(D委員)

ソフト面でも積極的に取り組みを行ってほしいと考えている。

(事務局)

他の都市では自主事業としてコンサート開催実績もあり、地域団体との接触も進めているということである。地域に密着して文化芸術を推進しようという思いがあり、他市での実績もある。文化芸術振興を図ってもらえると思っている。

(E 委員)

新しい信濃美術館で北信美術展・県美術展が行われる予定である。県の施設であるが、長野市にある美術館ということで、市としても利用を高めていく動きも必要と考える。また、来場者に対して駐車場が足りるのか心配である。

(事務局)

「長野市風景画展」も信濃美術館での開催を検討している。美術館とは連携をとっていきたいと考えている。城山では、美術館だけではなく公園等も含めた一帯の整備を行っているところであるので、駐車場に関しても推移を注視していきたい。

(F 委員)

現在工事中であるセントラルスクウェアのステージは大きなものになっている。前のステージは朽ちていく姿を見てきたこともあり、長野市としても積極的に活用してほしい。

(事務局)

「表参道芸術音楽祭」は、これまで T0iG0 広場にステージを設けて開催していたが、来年度はセントラルスクウェアで開催する。その他にも、文化芸術の発表と併せて東京 2020 オリンピックのパブリックビューイングでも利用する予定である。

(G 委員)

伝統芸能の継承が難しい中、獅子舞フェスティバルへの参加を通して再び活動が活発になったという団体もあるが、市内に 260 ある団体のうち 80 団体しか参加していないことに寂しさも感じている。

(A 委員)

神輿会でも人数が足りず団体同士で人の貸し借りも行っている現状がある。フェスティバル参加が 80 団体にとどまったのは、単独では参加できないという背景もあるのではないかな。

(G 委員)

昔は活動していたが今は衰退してできないという団体もある。祭りの時期には他団体から応援を頼まれることもある。

(A 委員)

団体に若い人が増えないという背景もあるのではないかな。周知を行い、新たな会員を増やすことができればと思う。

(G 委員)

始・終業式で子どもに舞をさせて学校に周知するといったように、子どもが興味を持ってくれるよう学校にも働きかけて活動を行っている。

(E 委員)

自分も神楽団体で笛をやっているが、後継者不足がはっきり目に見えている。芸術は短期間では習得できないものであり、育てるのが大変。団体数が減っていく危機感もある。

(H 委員)

団体に所属していない小・中学生でも祭の時期になると練習を始める等、その場限りではあるが伝統芸能に取り組んでいる姿が見られる。伝統芸能を始めたい子はいるが、大きな団体に入りづらいといった事情もある。声を掛ければ喜んで取り組むだろうが、繋げていくのがうまくいかない現況である。繋げたいという思いはある。

(A 委員)

市内の大学の学生と、神輿を担いだ際に話をする機会があった。それぞれが昔自分の地域で伝統芸能をやっていたということだった。その経験が中学・高校で分断され、うまく繋がらない。繋がる仕組みを作れたら良い。

(I 委員)

どう仕掛ければ動き出すのかを考えていかなければならない。

(J 委員)

長野のみならず、日本・アジアでも文化の継承問題がある。現地の子どもは自分の国の文化を知らないが、知れば興味を持ってやり始めるものと考ええる。アーカイブ事業にもかかわるが、何を継承しているのか形に残していくことが大事である。

災害対策については、ボランティアによる文化財レスキュー活動が挙げられるが、市としてはどのような計画を立てているのか。

(事務局)

文化財レスキューを担当している博物館によると、今回の災害では、大学や近隣ネットワークに迅速に動いていただいたが、それでも個人所有の水没資料は捨てられてしまったということであった。長沼・豊野地区は泥が多く、手がつけれない状態であり、作業の終了には8～10年かかるだろうと推定される。テレビ番組で文化財レスキューが取り上げられた影響もあり、多くの方がボランティアに応募し、研修を受講した。ボランティアの組織化・ネットワーク化が進み、今後同様の災害が発生した場合に、被災した資料を救うために動いてもらうことができれば良いと考えている。

(2) 令和2年度 長野市子ども文化芸術賞受賞候補者選定について ※非公開

5 その他

6 閉会